

「長崎市第三次環境基本計画(素案)」に関するパブリック・コメント

No.	意見の内容	長崎市の考え方
1	電気自動車等を導入しますとありますが、外国製電池を利用している電気自動車では海外にて発火の事故が発生しております。また、長崎市市内でも浸水する地区もあり、電気自動車の浸水による感電も懸念されます。購入時は安全面を第一にご検討いただきたい。	市役所への電気自動車等導入にあたっては、安全面を考慮して導入を行うとともに、市民・団体及び事業者への電気自動車等の導入に係る普及啓発にあたっては、正しい利用方法等についても併せて呼びかけるよう努めてまいります。
2	地元産食材を選びますとのことですので、学校給食に使われる食材については、食育の観点でも長崎市、長崎県、九州の食材を優先して使用いただきたく、例えば、パンについても国産小麦粉を使用したものを強く希望いたします(遺伝子組み換え小麦内の残留農薬による長期的な健康被害の懸念もございます)。	学校給食の食材につきましても、献立作成の基本方針のひとつに「地産地消の推進に努める。」を掲げており、現在も長崎市産、長崎県産の食材をできる限り献立に取り入れるようにしております。今後も、地元産食材の使用に努めてまいります。なお、使用する食材は、厚生労働省が定める農薬の残留基準値に適合したものとなっております。
3	公共交通機関の利用については、通勤でもバスを利用しておりますが、ダイヤ通りの運行ができておりません。時刻通りの運行が公共交通機関の利用率向上には重要と思います。サービス向上に向けた支援策をご検討いただければと思います。	市内公共交通機関と連携し、サービスの向上に努めてまいります。
4	食材は残さず使い切るとありますが、加工食材とするべきです。生鮮食材は食べなければ結局捨てられることになりはなりません。また、農業の活性化のためには、生産した食材を全て買い取れる環境構築は食糧安全保障上も重要なポイントとなりますので、余剰食材を長期保管できるような加工を施して、学校給食に取り入れるなどの工夫を期待しております。	ごみを減らすという観点から、生鮮食材や加工食材等広く含めて「食材は残さず使い切る」という表現をしております。
5	気候変動による災害が激甚化・頻発化している現状とありますが、統計データがあれば公開いただけませんか。インフラ整備やメンテナンスの不良による被害拡大ではないことを望みます。	気候変動の影響への適応に関する情報を一元的に発信する国のポータルサイトの中で各種統計データが公開されており、基本計画の中でも紹介したいと考えております。(http://www.adaptation-platform.nies.go.jp)

No.	意見の内容	長崎市の考え方
6	<p>太陽光発電設備の導入を促進予定ですが、これら設備が不要となった場合の処分方法については目処は立っているのでしょうか。また、太陽光設備導入において、パネルメーカーが人権の観点で問題ない部品を使用していることを念頭に購入先を選定いただきたいと思います。</p>	<p>太陽光発電設備を処分する場合は国のガイドラインに則り、適正に処理できるよう周知に努めてまいります。また、導入にあたっては法令等を遵守した製品であるべきものと考えております。</p>
7	<p>公園・コンビニ駐車場・ガソリンスタンド・道の駅など、特に車が立ち寄る場所に公共の「みんなのゴミ箱」を設置することを提案します。</p> <p>レジ袋の有料化や外食が消費税10%となったここ数年、車からのポイ捨てが増えました。住宅地内の道路はきれいですが、道路脇が草むらのような場所でのポイ捨てが増えています。山間部の道路脇のポイ捨てもひどいです。草刈りの業者も刈った草は回収しますが、空き缶やプラごみは自分たちの仕事ではないと考えているのか放置されたままです。</p> <p>道路は歩行者や自転車も通りますから絶対に車からとも言い切れませんが、たとえば女神大橋の駐車場内はゴミだらけです。駐車場は歩行者も自転車も行きませんからドライバーのマナーが悪いのは明らかです。消費税8%で食べ物を購入し、レジ袋も断り、車内で飲食して邪魔になったゴミは車外にポイ捨てしているのでしょうか。レジ袋はこれまで自宅までの持ち帰り袋としても機能していたと考えられますが、貰わなくなったことで逆にゴミが邪魔となり、ポイ捨てを助長しています。</p> <p>山間部の道路脇のポイ捨てもひどいです。草刈りの業者も刈った草は回収しますが、空き缶やプラごみは自分たちの仕事ではないと考えているのか放置されたままです。</p> <p>山間部の道路脇のゴミを回収する仕組みが社会にありません。いずれは大雨で流され、川から海へと流されて海洋ゴミとなってしまいます。一度海洋ゴミとなってしまうと、回収するのに多大な労力を要します。つまり、ゴミは散らばる前に回収するのが合理的なのです。みんなゴミのポイ捨ては悪いと思っていても無くならないのですから、個人の道徳心にはもはや頼りません。</p> <p>以前は公園からゴミ箱を撤去したら、逆に公園がきれいになったと言われていました。しかし、現在は違います。</p> <p>最初に述べた公園・コンビニ駐車場・ガソリンスタンド・道の駅などにすぐに一杯とならないような大型の「みんなのゴミ箱」を設置し、清掃業者の回収ルートに組み入れることを提案します。家庭ごみ、産業廃棄物まで持ち込まれるリスクもありますが、ゴミは拡散してから回収するのでは逆に多大なエネルギーを必要としますので、大局から判断して環境のためになると私は考えます。</p>	<p>現在、長崎市においては、廃棄物の適正処理、資源循環型社会の形成などの観点からごみの分別収集を行っており、ごみの再資源化などに取り組んでおります。</p> <p>このごみの再資源化はごみの分別が適正になされている必要があり、分別がなされず、他のごみが混在していると、再資源化することができず、埋立処分場に埋めるしかなくなってしまいます。</p> <p>大型のごみ箱を設置すると、その排出されるごみは分別がなされず、本来分別収集されていたごみが再資源化することができず、埋立処分場の容量を圧迫することに繋がるのが懸念されます。</p> <p>また、ごみ収集は「燃やせるごみ」や「燃やせないごみ」などの種類ごとに収集しているため、混在されているごみを収集するためには、別途収集車両が必要となります。</p> <p>これらのことから、大型のごみ箱を設置することは難しいと考えておりますが、ご指摘のごみが拡散される前に回収すべきのご意見は、ご指摘のとおりと考えており、不法投棄防止対策としての監視カメラの設置やパトロールなどの対策を継続して実施し不法投棄を減らせるよう努めてまいりたいと考えております。</p>

No.	意見の内容	長崎市の考え方
8	<p>個別目標・施策「豊かな自然環境保全・共生」の現状について、取り組みについては現場の状態はいいとは考えられません。保全の充実と山野森林の現状調査が欠けていると考えます。特に成果指標の森林整備面積は、令和2年数字データなしから令和12年度2,070haという数字が出ています。また今後についてデータの充実と4年後にはじまる国の森林環境税等についてもふれられたらどうでしょう。</p>	<p>令和2年度末における累計整備面積については3,602haとなっておりますが、今後の目標値の設定にあたりましては、計画期間である9年間における整備面積を明確に示すため、令和2年度はデータなしから令和12年度 2,070haという表現にしております。</p> <p>また、国の森林環境税及び森林環境譲与税については、森林の整備及びその促進を図る手段として重要なものと考えており、特に関連施策である経営管理制度の実施について準備を進めているところです。本制度は主に人工林を対象としておりますが、第三次環境基本計画における環境保全の対象となる森林は人工林に限ったものではなく、市内全体の森林を対象としていることから、本計画内に記載は行わないことといたします。しかしながら、前段にも記載のとおり、森林整備を進めていくうえで、森林環境譲与税の活用は重要なものと考えておりますので、個別の事業へ活用しながら取り組んでまいりたいと考えています。</p>
9	<p>海洋についての現状把握と取り組みデータ収集が足りないと思います。長崎市は海域として3つの海域があります。市町村合併で加わったのが大村湾です。二酸化炭素の吸収に海洋植物プランクトン、海藻等ブルーカーボンの取り組みが重要です。きれいな海から豊かな海への取り組みが必要と考えます。</p>	<p>現在改訂作業中の長崎市地球温暖化対策実行計画において、森林だけではなく、海洋生態系による吸収源対策について明記し、推進していく予定としています。</p>